

平成 21 年度教育課程

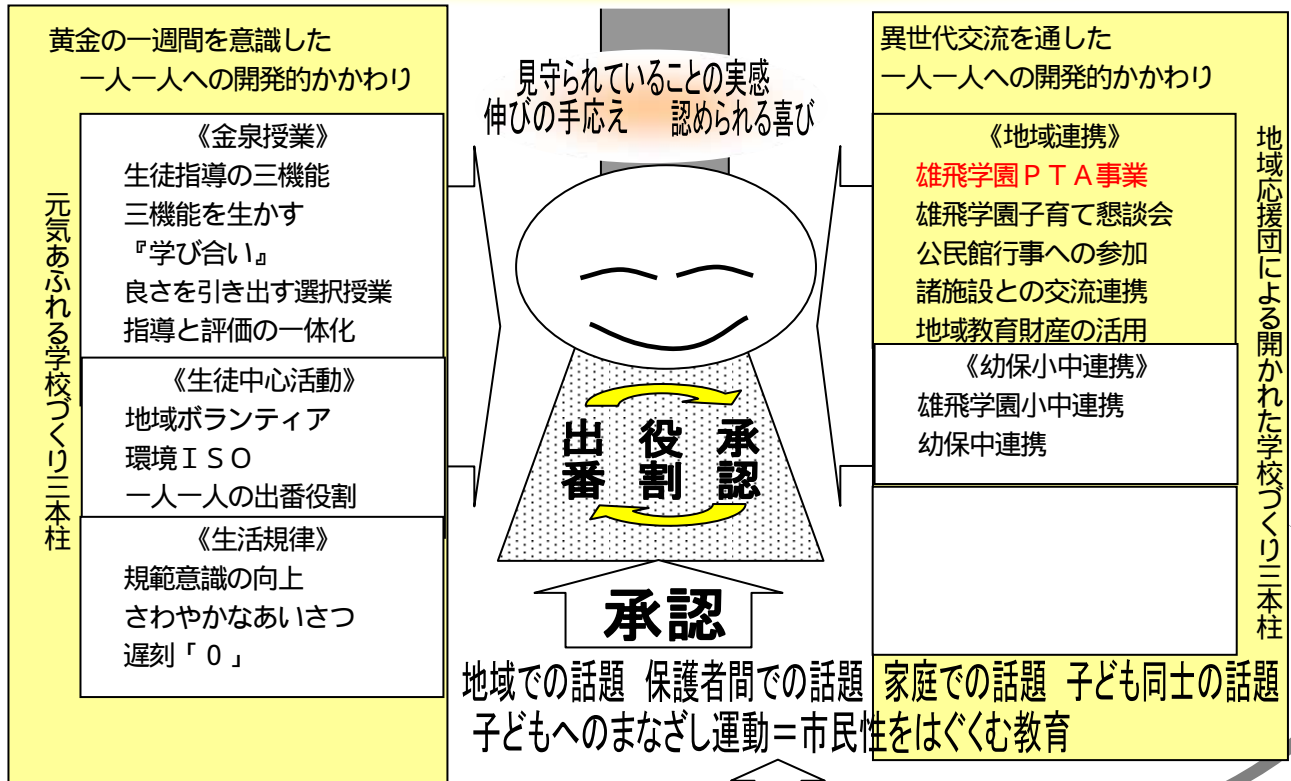
1 教育目標

(1) 学校の教育目標

元気あふれる学校

自分に自信を持ち、自分の良さを実感できる子ども
～心の安定と人間的豊かさ～

家庭・地域の大切さ 自分自身の大切さ 規範意識の高揚



雄飛学園総ぐるみで開発的かかわりの渦を巻き起こす!

平成21年度金泉中学校のめざす教師像

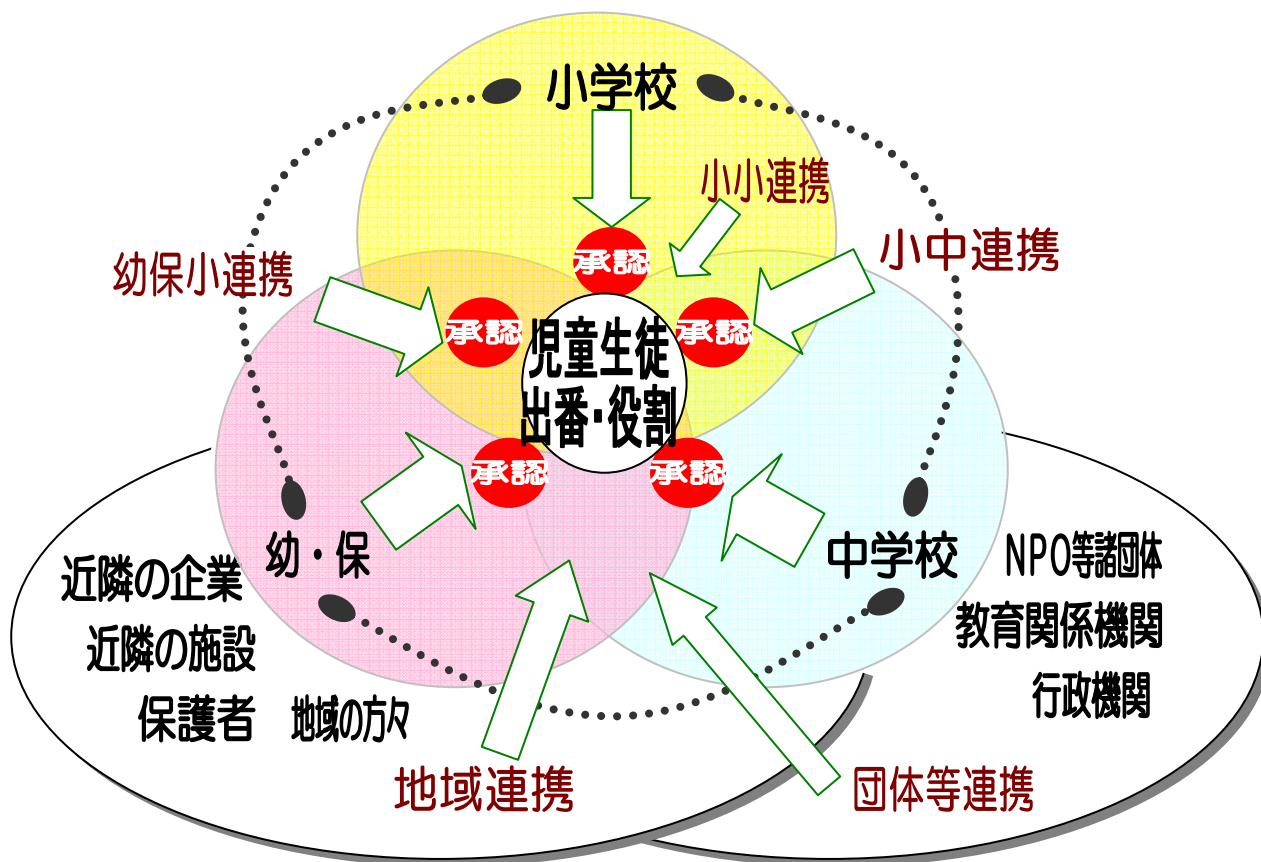
自己研鑽に励み、指導力を磨く教師
互いに信頼し協力し合う教師
地域や保護者と進んで交わり、人としての魅力
(人間性)を高める教師

めざす保護者像

明るい家庭づくりに努める保護者
優しさの中に厳しさのある保護者
子どもとともに学び希望を持たせる保護者

2 目標達成のための基本方針

地域連携で展開する開発的かかわり構想図



PTAと共有する開発的かかわりキーワード図

自分に自信を持ち、自分の良さを実感できる子ども
～心の安定と人間的豊かさ～

雄飛学園総ぐるみで展開する
開発的かかわりのキーワード

出番・役割・承認

黄金の一週間

対処的生徒指導と予防的生徒指導

揃っていく集団

指導の視点0基準

帰属意識の高まり

雄飛学園PTAと共に進める地域応援団活動

公民館・自治会と連携した学校情報公開
[地域行事等へ参加, 通信物, 学校HP...]

雄飛学園及び各学校のPTA活動

- ・雄飛学園PTA連絡会
- ・雄飛学園子育て懇談会
- ・地域クリーンボランティア活動など

公民館と連携した地域文化創造

- ・金立公民館中学生リーダー研修会
- ・人権・同和教育研修会
- ・公民館行事への児童生徒の参加

(2) 目標を達成するための基本方針

対処的生徒指導

～生徒一人一人の成長を見通し、開発的かかわりへと進展するための対処的生徒指導～

問題行動等が発覚した場合には、子どものその後を見通した開発的かかわりを職員、保護者等が理解した上で対処的生徒指導を進めます。対処的生徒指導では職員の組織的対応を念頭に置きながら、生徒・保護者へは不安感、不信感、威圧的なイメージを与えるのではなく、生徒がより良き成長を遂げる教育的手立ての理解を求め、保護者、または地域と協力し合いながら対処的生徒指導を展開します。

具体的には、問題行動にかかわる情報収集、及び情報選択を的確に行いながら、個別に対応する対処的生徒指導のプランを保護者含む関係者に提供しながら開発的かかわりへの進展を図ります。

予防的生徒指導

～生徒一人一人の成長を見通し、開発的かかわりへと進展するための予防的生徒指導～

本校学校づくりの柱である「黄金の一週間」の取り組みを予防的生徒指導に生かします。黄金の一週間では大きな節目のはじめの一週間(「一週間」は一週間と限定したのではなく適切な期間のことを言う)と終わりの一週間の中で学校・家庭生活の両面から「出番・役割」に対する意識や自己の学力を向上させる為の意識を高めることができるような手立てを仕組みます。

そのためには、学校内外の教育活動における「出番・役割」の必要性と重要性を生徒とともに学校全体で理解します。また、意図的な「出番・役割・承認」による開発的かかわりが予防的生徒指導ともなり、その積み重ねが子ども一人一人の事故回避能力の育成、及び、自己伸長能力の育成につながることを重要視し、予防的生徒指導が開発的かかわりの手立てとなるよう予防的生徒指導を展開します。

また、「黄金の一週間」という視点を通した対処的生徒指導、予防的生徒指導の価値観を本校職員、生徒のみならず、校区内の両小学校とともに、保護者、地域の方々全てが理解し、意図的に実践できるようにその理念を浸透させます。

開発的かかわり

～開発的かかわりで展開する生徒の「出番・役割・承認」の拡充～

「黄金の一週間」「異世代交流」の視点を明確にしながら、学校行事にかかわること、金泉授業にかかわること地域連携(小中連携含)にかかわることで進めていきます。学校内教育活動における出番、役割は生徒一人一人の『指導の視点「0」基準』を職員が再認識しながら、生徒一人一人の実態に応じた出番、役割の設定を行い拡充し、生徒一人一人に学校外からの承認を得ることができるような活動も進めます。特に平成20年度より取り組んだ金泉フェスタでは、生徒中心活動の総まとめとして「黄金の一週間」「異世代交流」「金泉授業」で取り組んだ学習内容を生徒自ら自己の出番と役割を意識して後輩達や保護者地域の方々発信することができました。今年度も金泉フェスタを開発的かかわりによるステップアップの節目とすることができるよう内容を充実させます。

特に金泉授業では、学力向上を目指すための授業として位置づけ、授業におけるその手立てを各教科で構築していきます。

市民性を育む教育

～全ての教育活動における「市民性を育む視点」を明らかにし

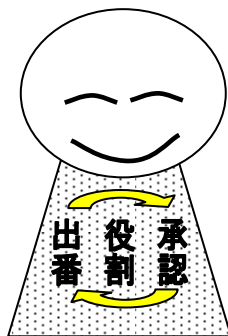
学校教育から「子どもへのまなざし運動」を発信～

異世代交流を中心として本校生徒の市民性を育みながら、金泉授業における「市民性を育む視点」を各教科・領域等において明らかにし、授業実践します。そのためには各教科・領域等の内容から「市民性を育む教育」と結びつけることができる学習を取り上げ、地域人材からのゲストティーチャーの活用を推進します。また、教科間の横断的学習で市民性を育むことができるような教科経営を進めることで、「市民性を育む教育」にアプローチします。保護者、地域へは本校教育活動における「市民性を育む教育」の視点や理念を分かりやすく説明することで家庭教育力、地域教育力を高めて生きます。具体的には、各教科・領域等の指導案への明記をしたり、PTA行事等で本校教育活動における「市民性を育む教育」をPTA活動と連携したりしながら広めます。

地域連携推進のための情報発信

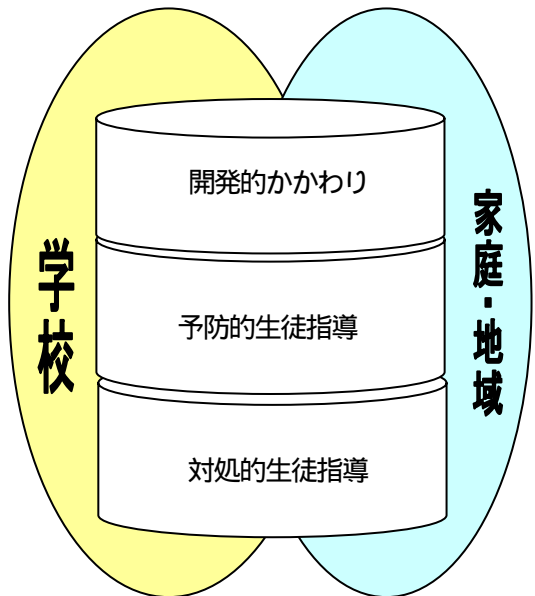
元気あふれる学校づくりにおけるこれまでの手立と、保護者、地域との信頼関係を重視しながら、学校行事等での学校公開はもちろんのこと、HP、各種通信等の通信物、及び雄飛学園PTAとの連携による懇談会、生徒中心による校外活動等の充実により地域連携と保護者・地域文化の創造を高めます。

開かれた学校づくり広報誌「たんぽぽ」
公民館で開催される月一回自治会長会で配布され、各町区
の回覧板に添付されます。



子ども一人一人の実態に
応じた指導
【指導の視点0基準】

開発的かわりの見通し
を持った指導



2 本校の教育の特色

地域性とPTA活動との連動から見た本校教育

ア．本校の校区は、古くから文化遺産やエヒメアヤメ等の絶滅危惧種を有しています。豊かな自然環境や社会環境を生かし、自分の地域に誇りを持つ人材育成を心がけています。

イ．地域の方々の教育に対する関心は高く、現状を認めながらもさらによりよいものを求める熱意に満ちています。地域ぐるみで一枚岩の教育を目指す本校の姿勢にも協力的です。その例として、平成19年度から取り組んでいる「金泉校区子育てミニ懇談会」には、本校保護者のみならず、小学校の保護者や地域の方々が多く参加されました。

その中には、義務教育学校にお子様のいない自治会長様や防犯協会の方々の参加がありました。また、三校連絡会では、三校のPTAが自主的に会を企画し、雄飛学園事業に対する理解を深めるための研修会やPTA新聞等の作成に尽力されています。平成21年1月に開催された「絵で見る元気あふれる学校展」では、保護者のみならず多くの地域の方々のご協力を得ることができました。平成21年度は小中連携を含めた地域連携がさらに深まるよう雄飛PTA連絡会が主体となって、地域ぐるみ子育てを進めます。

「揃っていく」開発的生徒指導の発展

ア．上記のような教育環境（学校文化・家庭地域文化）のもとで生徒一人一人の良さを引き出し伸ばすという開発的かかわりを平成21年度は一層発展させ、子どもに内在している良さをさらに引き出していこうとする意欲的・積極的な指導を行います。

年間を通して、この黄金の一週間を校内に息づき、生徒一人一人が学活ノートや始業式、終業式時の決意発表、振り返り発表でも口ずさむまでになりました。このことにより、基本的生活習慣はもちろんのこと、集団生活のルールも一人一人が意識したり互いに気づきあいをしたりしながら学校文化が形成されてきました。開発的かかわりにより、従来対処的に行っていた生徒指導のあり方も開発的となり、教師による「揃わせる生徒指導」ではなく、生徒自らの力で「揃っていく」生徒像が確立されつつあります。この学校文化が今後学校の特色として根付くことができるように生徒と職員、保護者地域の方々が一丸となって開発的かかわりを進めることができる学校づくりに邁進します。

イ．規範意識の高まり

生活指導面においても「儀式的行事」「旅行的行事」など集団行動においても身だしなみをはじめ厳粛な雰囲気と整然とした整列などを生徒一人一人が意識できるようになりました。これは、開発的生徒指導の見通しを持った予防的生徒指導の繰り返しによって生徒ができるようになったことです。このような生徒一人一人の意識が生徒集団としての良さとして一人一人が認識し、毎年受け継いでいくことができるような開発的生徒指導を継続的にを行います。

ウ．生徒指導の三機能を生かすための手立てを工夫した金泉授業の工夫

開発的かかわりの根源にある生徒指導の3つの関わり方として、共感的な関係を育みながら関わる 自己存在感を与えながら関わる 自己決定の場を与えながら関わるという方法「生徒指導の三機能」があります。本校の金泉授業では、この三機能の効果を高める手立てを教科・領域等においてその手立てを仕組みます。授業では常に生徒一人一人が自尊感情を高めながら授業に参加することができるような授業を展開するために『学び合い』等の手法を取り入れた授業を開発し、常に実態に応じた授業を展開します。

エ．開発的かかわりの原点である学級づくり

学級経営においては全7クラスという小規模校の良さを生かし、職員一人一人が全クラスの担任という意識を持って生徒一人一人へのかかわりを大切にしています。学級は、自己に応じた「出番・役割」に開発的かかわりの原点に値する場です。係り活動や班活動、または行事等では学級全体で取り組む場等があります。その一つ一つの場で開発的かかわりが実践されます。学級での「出番・役割」を大きな自信とし、より大きな舞台に臨むこ

とができるよう学級づくりを進めたいと考えています。

さらには、一つ一つの承認が、自信となり授業場面での「出番・役割」に発展することができるような開発的
かかわりを進めます。

3 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

元気あふれる学校

確かな学力の定着

- ・「授業がわかる」と答える生徒の割合85%以上を目指す
- ・できるまでわかるまで教える

金泉授業

- ・一人一人の生徒の実態の応じた出番・役割の場を設定し一人一人の良さを引き出し、伸ばすとともに「承認」の充実を図る

生徒中心活動

- ・「金泉フェスタ」で開発的生徒指導の実際を生徒間で受け継ぐ
- ・「異世代交流」「黄金の一週間」を意識した生徒会活動の活性化
- ・一人一役「一人一人が学校づくりの一員」の自覚(1年宿泊研修からスタート)
- ・金泉中環境ISOの日々実践

生活規律

- ・基本的生活習慣の定着を図り規範意識を高める
- ・遅刻「0」をめざす
- ・できていることをみんなで認める

地域応援団によって開かれた学校

地域活動

- ・地域の豊かさを生かした学習活動
- ・先人の思いを受け継いだ地域貢献活動

ふれあい活動

- ・子どもと家庭の良さが一目で分かる通知表の工夫
- ・「優しさ」発信場、ふれ合い農園の活用

地域公開活動

- ・いつでも参加・参観できる地域公開授業の実施
- ・施設開放で地域に貢献

雄飛学園事業

- ・雄飛学園PTA連絡会による地域連携
- ・雄飛学園小中連携行事等連携と教科等連携の充実
- ・金泉校区子育て懇談会の実施
- ・年3回の雄飛学園連絡会
- ・雄飛学園地域応援団の拡充を目指した地域連携活動の充実

確かな学力の定着

数学と英語は、学習内容の習熟の程度に応じた少人数授業を行います。

放課後の補充指導やサマースクールを開催し、意欲ある子どもや低学力の子どもへの個別指導を行います。
新学習指導要領を見越した授業実践をおこないます。

金泉授業の実践

学び合い学習を中心に、生徒が活躍する授業を行います。

学び合いの場を通して、自他の良さを認め高め合う学習を工夫します。

(2-1) 幼保小中連携の取り組み

幼保中の連携

毎年、金立公民館、久保泉公民館の子育てサロン「びよびよクラブ」「すくすくクラブ」と本校家庭科の授業(2年生)がタイアップした異世代交流活動を展開させています。昨年度からは、直接、金立幼稚園と和泉ふたば保育園に中学生が行き、技術・家庭科「幼児教育」単元の実習をしました。実習では、一緒に遊ぶ、一緒に食事をする、お昼寝のお手伝いをする等の体験学習をするなどの学習を通じた連携を深めました。今年度も継続します。

小中連携(雄飛モデル)

- ア. 出前授業においては、技能教科の連携を充実させます。
美術...スケッチ大会前後の指導, デッサン・クロッキー指導。
体育...運動能力テストの事前指導。
音楽...連合音楽会, 卒業式の式歌練習で指導
英語...英語を含めた4教科では、授業進度を考慮しながら、小学校の教科の内容に合わせて、発展学習的内容を取り扱ったりします。
小学校外国語活動への出前授業は、中学校英語で実施します。また、中学校英語担当教諭が小学校外国語活動の支援としてALT的な役割をしながら授業参加します。

小 中TT授業

- ア. 1年生の「宿泊研修」(5月実施)における授業支援を行います。
イ. 金立公民館主催「金立公民館中学生リーダー研修会」に講師として参加する。

小6部活動体験+中学校英語体験

開発的かかわりでプログラムした部活動体験を実施する。開発的かかわりの視点は、金泉中学校全部活動を小学6年生が体験するものであるが、全部活動を体験する価値としてより多くの中学生とのかかわりを育むことにあります。

小6部活動体験の日程内に、中学校英語体験を行います。金立小学校と久保泉小学校を縦割りの3班に分け、小6児童の一人一人に中学生がつきます。中学生はT2の役割を担いながらスタッフの一員として「中一ギャップ」解消を目指します。また、中学生のためのピア・サポートプログラムとしての価値付けもしています。

新入学説明会

毎年、好評を得ている新入学説明会を今年度も生徒会と実行委員会が開発的かかわりにより企画運営します。ねらいとして小6児童の中一ギャップ解消、児童生徒のつながりを重視しながら、中学校情報の発信として価値付けします。

児童会生徒会連携

両小学校の児童会小小連携とともに、中学校生徒会の取り組みを紙媒体やHPを通して交流します。取り組みを紹介したカードを各学校掲示することで、児童生徒間の間接的なかかわりが期待できます。

その他学校行事を通じた児童生徒の交流

平成20年度は、人権集会で交流しました。金立小学校の人権集会で中学生が「人権劇」を披露しました。このように、その年の状況に応じて連携を進めていきます。

雄飛学園PTA連絡会

ア．地区行事の精選と共同開催

現在、小学校区ごとに行われている地区行事の精選と共同開催の実現に向けて、平成20年度末から協議が行われています。学校としては、地域の活性化と児童生徒への開発的かかわりの拡充となるよう協力していきたいと考えています。

イ．雄飛学園子育て懇談会

平成19年度より行っている雄飛学園子育て懇談会は平成20年度より、小中共同開催となりました。会には、小中のPTAと職員が参加し、懇談会が開かれます。平成21年度も、子育ての悩みや相談ごとから開発的かかわりで創造する家庭・地域文化まで広範囲で話が深まるようPTAと協力しながら開催したいと考えています。

ウ．地域応援団の活用

校外学習や小中連携などの学習場面では、多様な援助を要請し児童生徒への開発的かかわりを深めます。具体的には、校外学習での交通立番、学校行事での「出番・役割」に対する承認活動等です。

(2-2) いじめ・命を考える取り組み

全校集会での取り扱い

月初めの全校集会におけるテーマに基づいた講話をします。日常のニュース等から職員が各自テーマを設定し、全校生徒の前でいじめや命に関する話を毎月します。

毎月の「お話タイム」

月初めにお話タイムを昨年に引き続き平成21年度も設定します。

お話タイムでは、全職員が定期的に朝の会の設定された時間にいじめや命をもとにした話をします。

生活アンケートの実施

生活アンケートでは必ずいじめに関する項目をおこし、いじめの把握に努めます。また学活ノートの点検を全学年、全クラスで行い、生徒の実態把握に努めます。

教育相談の設定

教育相談期間では、必ずアンケートに基づき、一人一人から情報集を行い、いじめのない学校、命の大切にすることができる子どもの創造に努めます。

(2-3) 市民性をはぐくむ取り組み

開発的かかわりを生かした教育活動で生徒一人一人の良さが伸び、一人一人の良さの伸びの集合体が学校文化を創造します。また、家庭や地域が、生徒の良さの伸びを意図的に承認し合う教育的環境が定着すればそれは地域・家庭文化として創造されていきます。このような教育的文化の創造には、学校行事、地域行事を通した保護者、地域の方々のかかわり、年少者（主として小学生）とのかかわり、また授業を通したゲストティーチャートのかかわりがあります。市民性を育むということは、より多くの世代の人々とかかわりの中で、人の温かさや地域のすばらしさに触れたり感じたりすることであるため、まずは教師集団が学校内外の教育活動に市民性が育まれる視点を持ち、以下の教育活動に位置づけていきます。

各教科・領域等で市民性を育む

教科・領域等の単元に応じて「市民性を育む教育」の視点を明らかにします。明らかにされた単元の授業実際場面において市民性を育む展開をします。また、本年度の教育の重点としてあげている地域の豊かな人材を積極的に生かすにも合致するよう、授業場面において地域人材の活用を進めます。

小中連携（雄飛モデル）で市民性を育む

年少者から年長者（児童 生徒）、年長者から年少者（生徒 児童）に相対する市民性を育む活動の視点を明らかにします。

開発的かかわりの広がりの中で市民性を育む

「承認」場面を児童生徒相互及び職員だけでなく保護者 地域に広げることでかかわりの範囲が広がります。保護者、地域の方々の承認が児童生徒にとっては人の温かさや地域の豊かさに触れる・感じる場面となりひいては、その承認活動が市民性を育むこととなります。そのために、平成20年度は「承認」方法を充実させるとともに、保護者、地域の方々からの「意図的な承認」活動をしていただくことができるように地域に根ざした開発的かかわりによる「市民性を育む教育」を展開します。

地域の核である公民館との連携の中で市民性を育む

平成20年度は、中学校各部活動のリーダーを対象とした研修会を夏季休業中に実施しました。金立公民館 壮年の会の援助もあり、地域の方々とのかかわり中でリーダー性と市民性を育むことができました。平成21年度も継続して開催します。

（2）指導の重点

各教科	<p>「金泉授業」を確立し展開します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 金泉授業とは、生徒指導の三機能を効果的に生かした授業です。生徒一人一人の実態に応じて、出番、役割を設定し、承認し合うことができる授業を仕組み、自尊感情を育て、一人一人の良さを伸ばします。そのために、指導案に三機能を明記します。参観者や参加者に分かるように授業場面に仕組む三機能の理解を保護者、地域の方々に広めます。平成20年度より、生徒指導の三機能の効果を高める手立ての研究を教科ごとに始めました。・ 選択授業では生徒の興味関心を高め、補充・発展学習を展開します。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ コンピュータや新聞、最新の機器やデータを利用するなど学習内容への興味関心を高める最新の教材を工夫します。・ 地域の方々が参加しても新鮮な発見がある授業づくりに努力します。・ 各教科で小中連携の出前授業を推進します。 生徒の学力・学習状況の定着を全国標準のテスト等で状況を把握し分析、検証をしながら、より伸ばすところや伸ばしてあげたいところを支援し学力を高めます。
道徳	<p>「金泉道徳」を確立し展開します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中学生の時期は自分で見つめ、他者との関わりを身につけ、自然や崇高なものへの心構えを作り、集団や社会との関わりを基礎を身に付ける大切な時期です。本校では道徳の4領域23項目を、開発的生徒指導のもと、出番や役割を通して人とのかかわりの中で学んでいくようにしています。そのために次のことを留意し

	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳性を実践する生活場面を身近な校内から徐々に金泉校区全体に広げる教材開発をします。 ・ 学校行事や異世代交流等を通して保護者、地域の方々と生徒と一緒に考える体験的道徳を展開し、道徳性の向上に努めます。 ・ 小中合同授業の設定に取り組みます。
<p>特別活動</p>	<p>学級は学校における生徒のよりどころです。一人一人の自己存在感を高めることができる学級活動の充実を図ります。</p> <p>学校全体、学年全体で位置づけた黄金の一週間の意識付けと取り組みを学級で具現化し、生活面における心構えと見通しを持ちます。</p> <p>学級経営案を作成します。校内研修では、各担任が作成した学級経営案を全職員で共通理解し、学級づくりに全職員で取り組みます。</p> <p>各行事では生徒の個性伸長のため、一人一人の出番、役割を学級、学年の利益として捉え仲間とともに成長することの大切さが分かる集団づくりを実践します。</p> <p>三年間の成長を見通し、各学年での目標を立て段階的に望ましい集団づくりを行います。</p> <p>生徒会活動を校内実践から地域実践まで発展させ活性化させます。</p> <p>地域の方々に参加していただき、人と人とのふれあう学校行事や生徒会活動を目指します。</p> <p>新1年生では、5月に「宿泊研修」を実施します。一人一人が出番、役割を体感し、承認を得ます。また、そこには、小学校旧担任が参加します。地域から「中学生に望むこと」と題して講話をいただき、市民性を育みます。</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>小中で連携し9年間で身に付けさせたい能力や力を発達年齢ごとに設定します。設定した身に付けさせたい能力をもとに、内容領域を策定し、身に付けさせたい能力や力に連続性と系統性を持たせます。</p> <p>設定した能力や力を身に付けさせるために、課題発見、課題設定、問題解決、情報収集、情報処理、表現力という学習のプロセスを大切にしながら学習計画を立てます。</p> <p>雄飛タイム（本校総合的な学習の時間の名称）においても、生徒指導の三機能と開発的生徒指導が実践され、保護者、地域の方々からの承認場面の設定、全校集会等での各グループの承認場面を設定します。</p> <p>情報リテラシー（本校では情報機器の操作能力だけではなく、「情報を活用する創造的能力」のことととらえ、情報手段の特性の理解と目的に応じた適切な選択、情報の収集・判断・評価・発信の能力、情報および情報手段・情報技術の役割や影響に対する理解など、“情報の取り扱い”に関する広範囲な知識と能力のことと共通理解しています）を育てます。</p> <p>オンリーワン事業により、金立小とは「そばづくり」で児童生徒直接連携をさらに深めます。また、久保泉小とは、双方の総合的な学習での取り組みを、HPや紙媒体を活用し、間接連携を進めます。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>開発的かわりを徹底します。</p> <p>ア． 保護者、地域の方々には、教育活動における生徒一人一人の良さの伸びはもちろんのこと、身だしなみやあいさつなどの基本的な生活習慣の向上も厚く望んでおられます。また、やがて社会の一員として活躍する生徒に対して、この時期に基本的な生活習慣を徹底させることは大変大切なことです。そこで、生徒会が主体となって「身だしなみを整える」「時間を守る」「気持ちの良いあいさ</p>

	<p>つをする」を徹底します。</p> <p>イ. アの活動の地域応援団の支援事業として、PTA活動「朝の挨拶運動」を展開し、保護者、地域の方々の温かさに触れることを大切にします。</p> <p>ウ. 対処的生徒指導、予防的生徒指導も日々実践する中で、個々の指導が開発的にかかわりに結びつくことができるようにかかわりをつなげていきます。</p> <p>エ. 教育相談を重視し、日ごろから生徒の実態把握に努めます。</p> <p>オ. 生徒の良さを伝え合う学校 家庭間の緊密な連絡体制を構築します。</p>
特別支援教育	<p>一人ひとりに必要な支援を、将来の進路まで視野に入れて、構想します。</p> <p>ア. 特別支援教育に関する研修を深め、年度当初に個別特別支援計画を立案し実践します。</p> <p>イ. 生徒指導協議会では、生徒一人一人を支援する協議を深め、随時実践します。バリアフリーの校舎（エレベーターつき）を生かし、人に優しい行動を育みます。</p>
人権・同和教育	<p>いじめや差別を許さない集団づくりを日頃から育みます。</p> <p>ア. 1年生時の宿泊研修ではグループエンカウンターで仲間づくりをします。</p> <p>イ. 授業では『学び合い』を取り入れ集団づくりに生かしています。</p> <p>社会同和教育との連携を図ります。</p> <p>ア. 人権・同和教育研修会を開始し、職員の研修に努めます。</p> <p>イ. 金立公民館主催の人権・同和教育研修会では、小中合同で参加し研修をします。あらゆる教育活動の場における人権・同和教育の推進をめざします。</p> <p>人権作文・標語を学校生活の中で取り入れていきます。</p> <p>学校を開き、人権と共生の視点で、PTAや地域への積極的な啓発に努めます。</p> <p>1年3学期の江戸時代の身分制度の授業には全教職員が参加し、前後の道德授業や集会を含め、人権感覚を磨きます。また、1,2年生の道德では「菜の花」「招かれなかったお誕生日会」「夕やけがうつくしい」を学習します。3年生では進路学習の中で就職差別を学び、人権・同和教育を展開します。</p> <p>年度当初の人権・同和教育の年間計画、8月の人権・同和教育研修会、12月の人権集会、年度末のまとめ等、校内での日頃の取り組みを集約したり、評価したり、子どもと共に発展させていく場を、柱として充実させていきます。</p>
キャリア教育	<p>本校では、1年から3年までの雄飛タイムを「生きる」で内容領域を策定し、学年ごとに「生きる」の中にキャリア教育の視点を位置づけます。また、内容領域「生きる」は小中連携においても、7年間の系統性、連続性のある「総合」の内容領域で策定します。</p> <p>具体的には、一年生では「職業調べ」、二年生では「職場体験」、三年生では「進路実現」という内容でキャリア教育を進めます。また、本校のキャリア教育は、「市民性を育む教育」の視点を取り入れるため、金泉校区内の企業や金泉校区在住の職業人への職場体験を進めます。受け入れ先の企業とは事前の打ち合わせで「出番・役割・承認」を理解していただき、生徒一人一人の実態に応じて市民性を育む教育を展開していただきます。</p>
教育課題への対応	<p>ワンフロアの職員室を生かした生徒理解</p> <p>学校版環境isoおよび各教科等における環境教育の充実</p> <p>校舎内外の清掃、整とんの徹底</p> <p>掲示物の整備工夫学校緑化・学校評議員制度の推進</p>